

は気温が20℃まで上がらないので、リン酸の効きが悪い。そこで前年10月の中頃にリン酸を施用する。20mm以上の大雨の日を狙い、粉状の過リン酸石灰を雨水で溶かして、根まで届ける。

上がり下まで大玉が揃う

状短果枝1カ所についで減らしてしまう。はじめる硬核期まで

に終えること。マメコバチで受粉して、リン酸の効果もあって、しつかり実止まりしているから、早くに摘果してもその後生理落果することはないそうだ。こうして一つ一つの果実に養分が集中してできあがったサクランボは、濃厚で、感激するような味になるという。サイズは樹の上から下までL〜2Lの大玉が揃い、収穫は1本の樹を1回で終わらせることができるほどだと

か。
話は前後するが、佐藤さんは摘蕾を晩生品種から始めて、早生品種をあとまわしにしている。そうすると晩生品種の生育が前進するから、収穫が途切れずスムーズにできるようになる。たとえば最晩生の紅てまりは、普通は7月10日頃が収穫だが、早い摘蕾によって6月末には収穫できるようになるという。

編

ミカン

摘蕾で

春枝と細い根が増える

和歌山県有田川町・的場清さん

的場さんのミカンづくりは、完璧主義の言葉がふさわしい。園地はミカンの栽培に適した秩父古生層の南向き斜面を選定。風当たりが強いので防風ネットが必要になるが、一般的な青い防風ネットだと光が遮られて、樹の光合成が阻害されやすい。それゆえ光を乱

目指すは 完璧なミカン

ミカン産地として全国に名高い有田川町。そのなかでも一番高価なミカンをつくるといわれるのが、的場清さん（63歳）である。



摘蕾適期のミカンの蕾
（写真はすべて赤松富仁撮影）

反射する白い防風ネットを張る。青と比べると割高だが、それを必要経費と考える。

出荷は個選で、早生ミカンが中心だがあえて早出しせず、味を乗せるために11月20日まで樹上で完熟させる。さらに10日〜1カ月予措して品質を安定させる。早生のお荷が12月から始まるわけだ（2010年11月号）。

「ミカンの味を守るためです。早く出しても品質に少しでもバラつきがあると、今年のミカンはダメだなど思われてしまうから、それをなくしたい」

摘蕾はとにかく大変

そして、普通はまずやらないミカンの摘蕾を、的場さんは品質を上げるために徹底してやる。4月末、ミカンの白い蕾が膨らんできたら、着果量が多い樹に対して、3分の1ほどの蕾をいっせいに摘み取る。狙いは花数を減らして、新梢を増やすことだ。



的場清さん。温州ミカン1.7haと不知火30aをつくる



せん定によって摘蕾が必要ない樹相になった樹。花と新梢（新枝）のバランスがよい

多くのパートさんを頼む場所さんも、せん定は奥さんと2人だけで時間をかけてやる。結果枝と発育枝のバランスをとり着花数を整えれば、摘蕾はそもそも必要なくなる。ミカンの質もよくなる。だが、なにぶん丁寧なせん定には時間がかかるので、ミカンと不知火合わせて2haをまわりきれない。そこでせん定の補完、「最終手段」とし

て、本当はしないほうがいい。仕方なくやっているんです」とも。理想は、せん定で着花量を整え、摘蕾をしなくても十分な新梢が出る樹にすることだというのだ。

的場さんは理想のミカンについてこう語る。
「ただ甘いだけではなくて、完熟してシヨ糖や果糖の比率が高い、旨みのある甘さがいい。酸味も必要で、糖度14、酸度0・7が目標です。後味がよくて、またすぐもう一口食べたくなる。食べて30秒後に口の中に甘みがうわーと広がるようなミカンが作りたいです」
摘蕾は、無数にあるうまいミカンづくりへのこだわりの、たった一つにすぎないのである。

する。生理落果が終わってから残った実を摘果するのが一般的だが、的場さんの摘蕾は生理落果の前に行なうので、労力が何倍もかかるのだ。
1本の樹を摘蕾するのに1人だと2時間ほどかかる。年によるが、的場さんは300本ほどの樹を摘蕾するので、1週間ではとても終わらない。そ

ここでこの時期はパートさんを10人も雇うというのだ。
摘果は夏枝が出てしまっ
しかし、大変な摘蕾をあえてするのはどうしてなのだろうか？ 着果量を減らすだけなら、生理落果を待つて摘果してもいいようにも思えるが――。

一番重要なのはせん定

「摘蕾は6月の摘果よりマ



摘蕾が終わった樹。摘蕾したい枝に的場さんがピンクのリボンを巻いて目印にし、パートさんはその枝の蕾をすべて摘む

的場さんは「摘果ではミカンに味が乗らない」という。生理落果後の6、7月に摘果をすると、樹からは夏枝が発生する。強い枝なので遅くまで伸び続けて養分を消耗するし、枝に対応した太い根が出て、養水分をぐいぐい吸い上げる。その結果ミカンの味が落ちてしまうのだ。
対して春の摘蕾の場合は、春枝がたくさん出る。弱くて伸張が早く止まり、果実に養分を送り込む枝だ。また水を吸い上げにくい細かい根が出るので、夏枝が出るよりもミカンの味がよくなるという。翌年の結果母枝も確保できる。

なお摘果はやらないわけではない。